

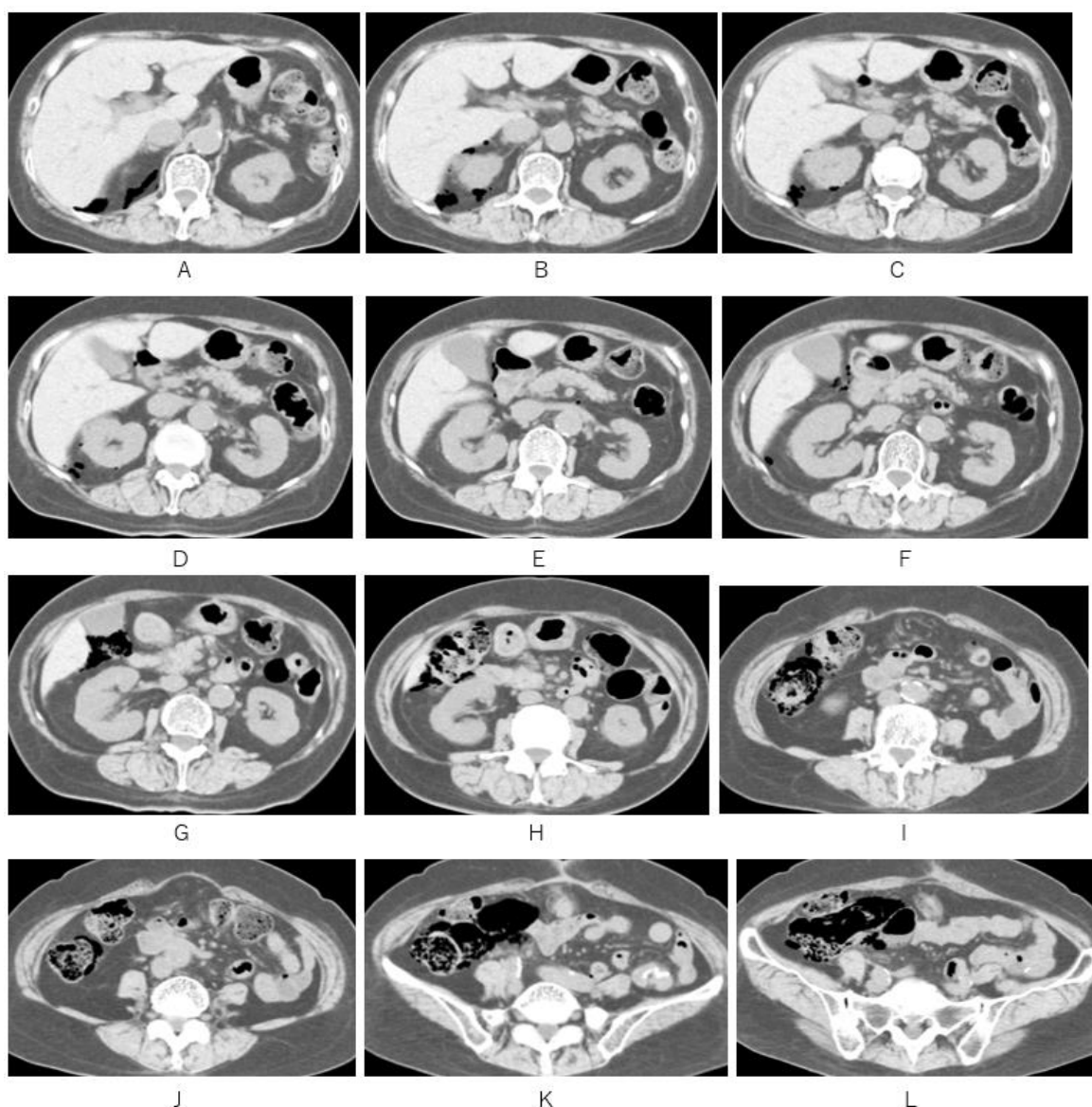
A Case of the Week

Case 419

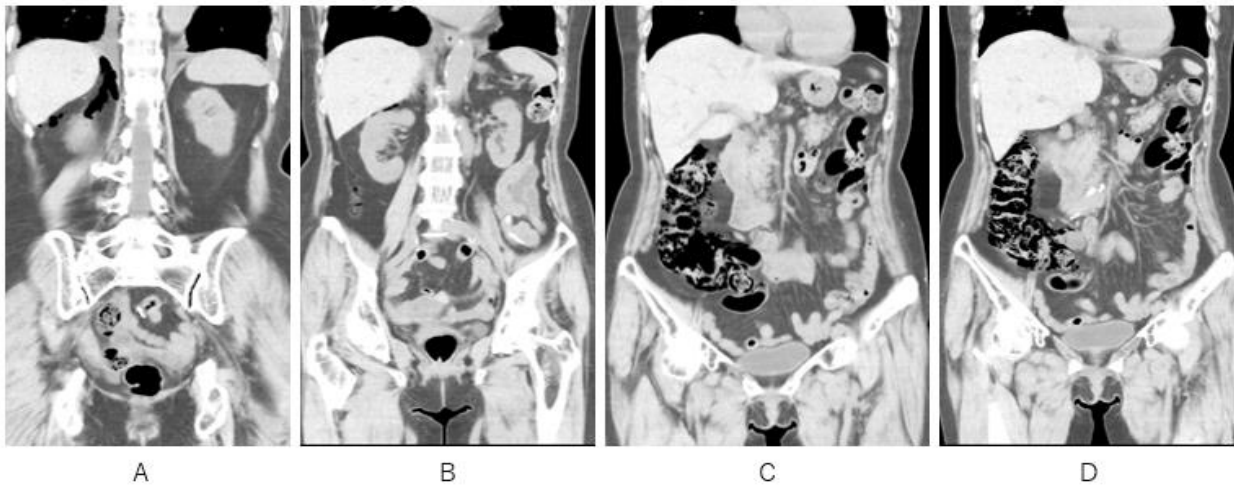
骨盤後腹膜 2

腎周囲腔にガス像、気腫性盲腸症

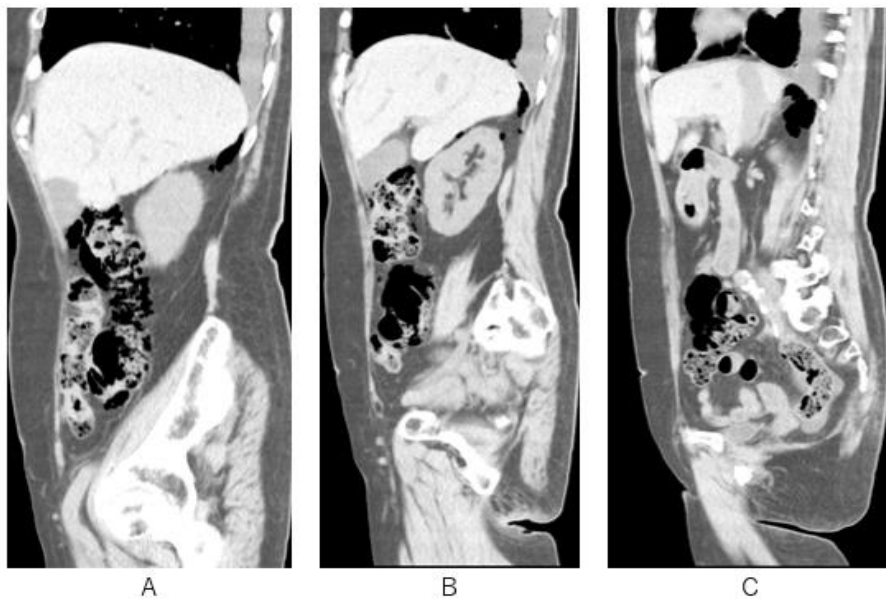
- 盲腸気腫が破裂
- 後腹膜にガスが遊離
- 前後傍腎腔、腎周囲腔にfree air



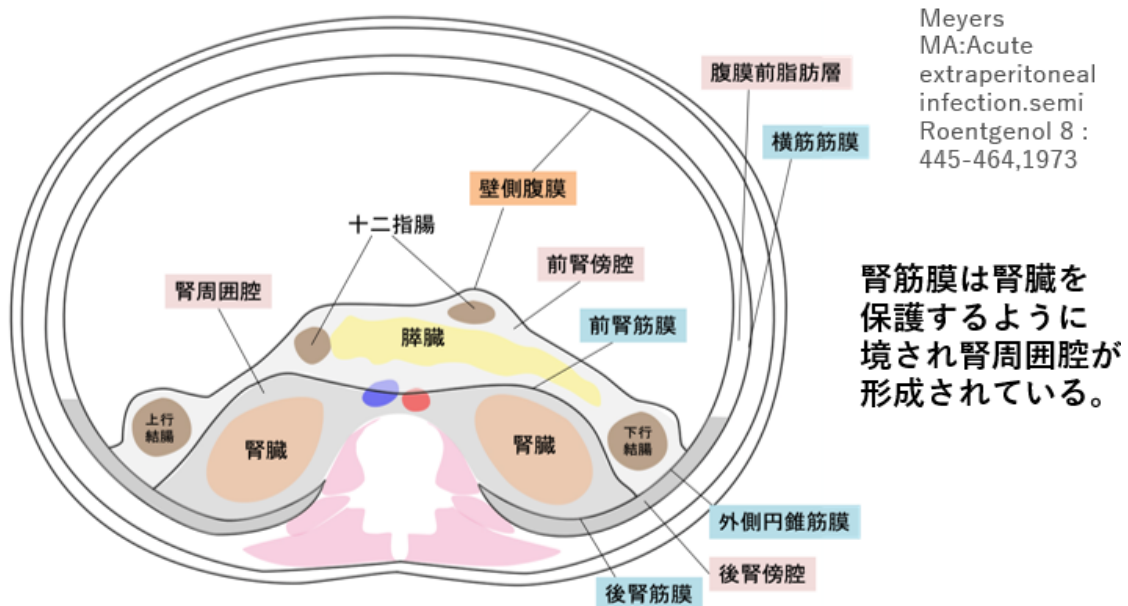
遊離ガスが後腎傍腔、腎周囲、前腎傍腔と交通があると思われる。
十二指腸周囲腔に見られる。尾側では盲腸から上行結腸周囲に認められる。



遊離ガスが後腎傍腔、腎周囲腔に認められる。尾側では盲腸周囲腔から上行結腸周囲腔に認められる。



遊離ガスが後腎傍腔、腎周囲腔に認められる。尾側では盲腸周囲腔から上行結腸周囲腔に認められる。



上腹部でよく知られている後腹膜

一腎周囲腔、前傍腎腔、後傍腎腔は 胸腔、下腹部、骨盤ではどのように連絡

Case 419：盲腸から上行結腸のガスは上向き腎周囲腔、前腎傍腔、後腎傍腔に入り込んでいた

Case 395：下行結腸からの胆汁漏出 傍膀胱から胸腔に入り込み

Case 405：口腔歯肉から咬筋周囲、眼球周囲、縦隔にガス入り込み

上腹部後腹膜腔

- ・ 腎周囲腔、前傍腎腔、後傍腎腔
- ・ Reuter教科書一下腹部でこの3腔は一体化
- ・ しかし、具体的にどこに存在するかは記載されず

骨盤内の腹膜腔外スペース(後腹膜)

- ・ 上中腹部の後腹膜腔：前腎傍腔、腎周囲腔、前腎傍腔
- ・ 下腹部(骨盤)の後腹膜腔：上記3腔が一体となり下降と記載
- ・ 尿管と腹部大動脈、下大静脈 腸骨動静脈並びにその分子の走行と共に下降
- ・ 腸腰筋の走行と共に下降
- ・ 他にあるのか

下行結腸から膿汁が下腹部後腹膜へ流出

- ・ 下腹部後腹膜から上腹部へ

上腹部の前傍腎腔、後傍腎腔に到達し、さらに胸腔、大動脈周囲腔に到達

- ・ 下腹部後腹膜から骨盤腔へ

骨盤腔後腹膜腔から前膀胱腔、左傍膀胱腔に到達

骨盤腔後腹膜腔とは？

産婦人科的・外科的・泌尿器科 後腹膜(腹腔外)腔

1. Bilateral:

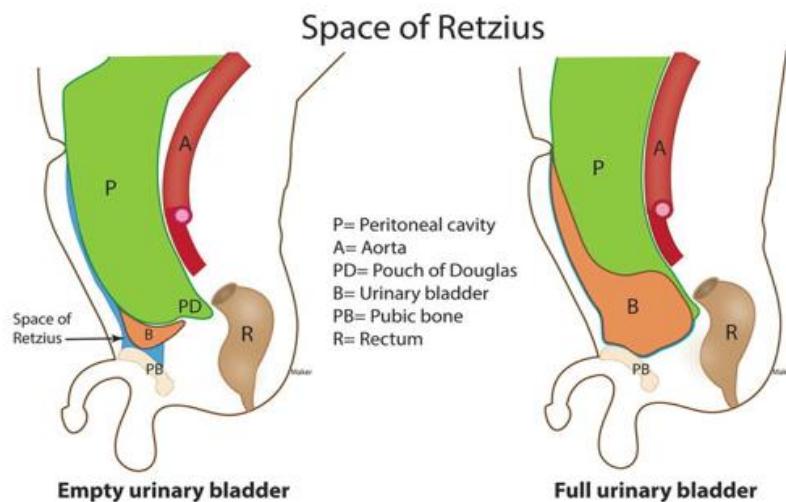
- a. Pararectal space 傍直腸腔
- b. Paravesical space 傍膀胱腔

2. Unilateral/midline:

- a. Prevesical space 前膀胱腔
- b. Rectovaginal space 後腔
- c. Retrorectal or presacral space 後直腸腔 = 前仙骨腔

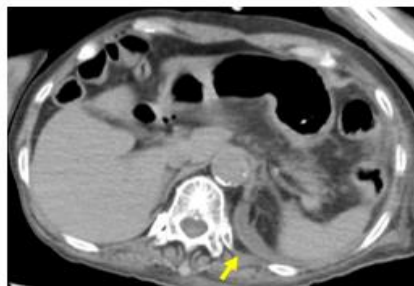
これらの腔は別個に存在し、交通があるかどうかについては不詳

Retropubic space (prevesical space, cave of Retzius or cavum Retzii)

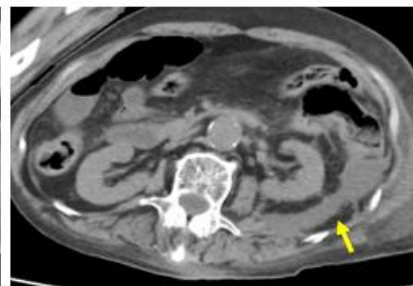




A



B



C



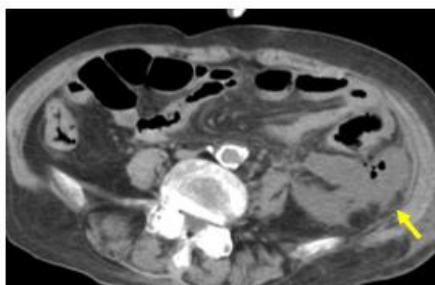
D



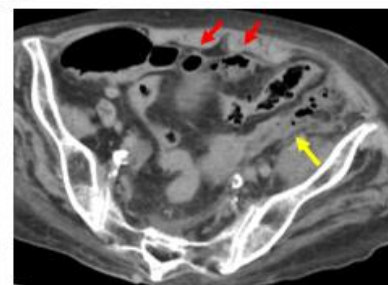
E



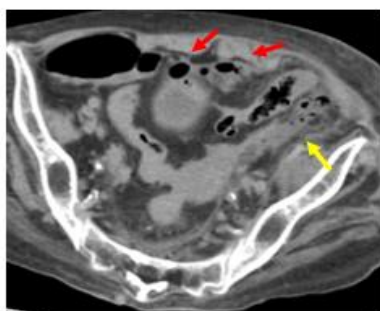
F



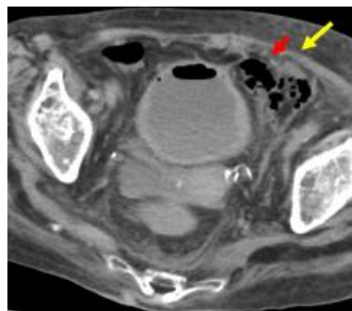
G



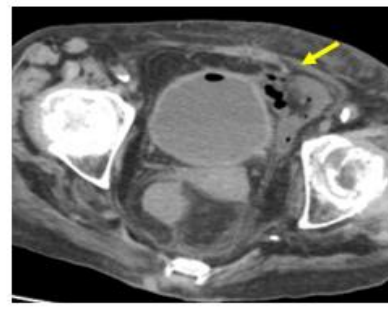
H



I

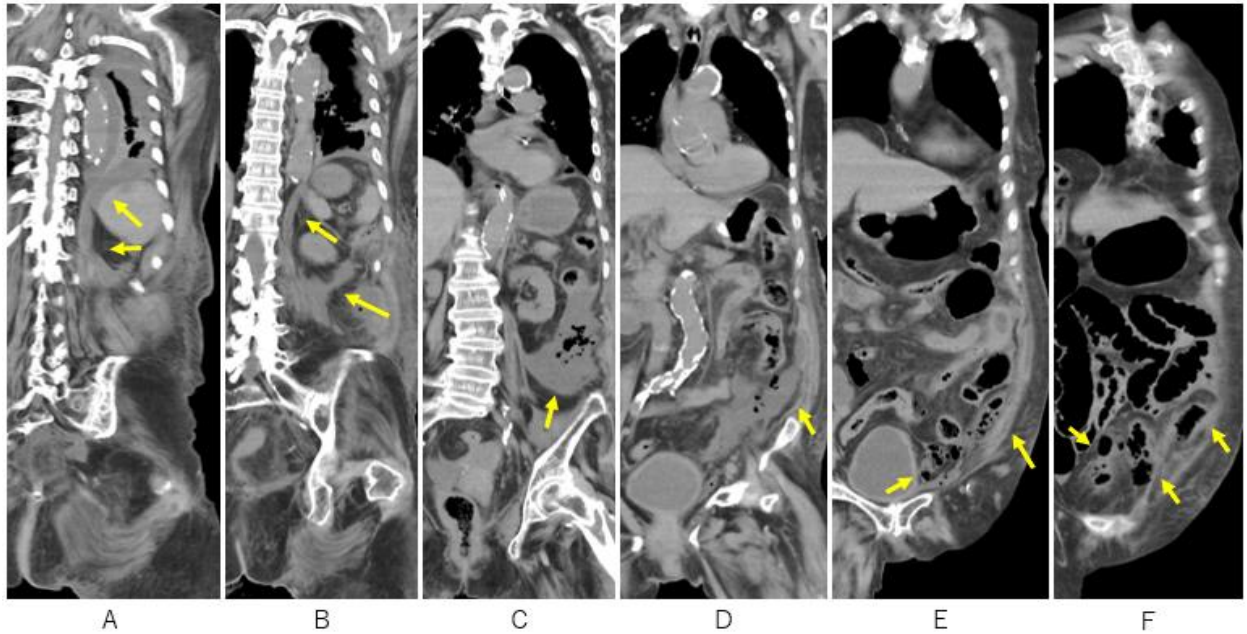


J

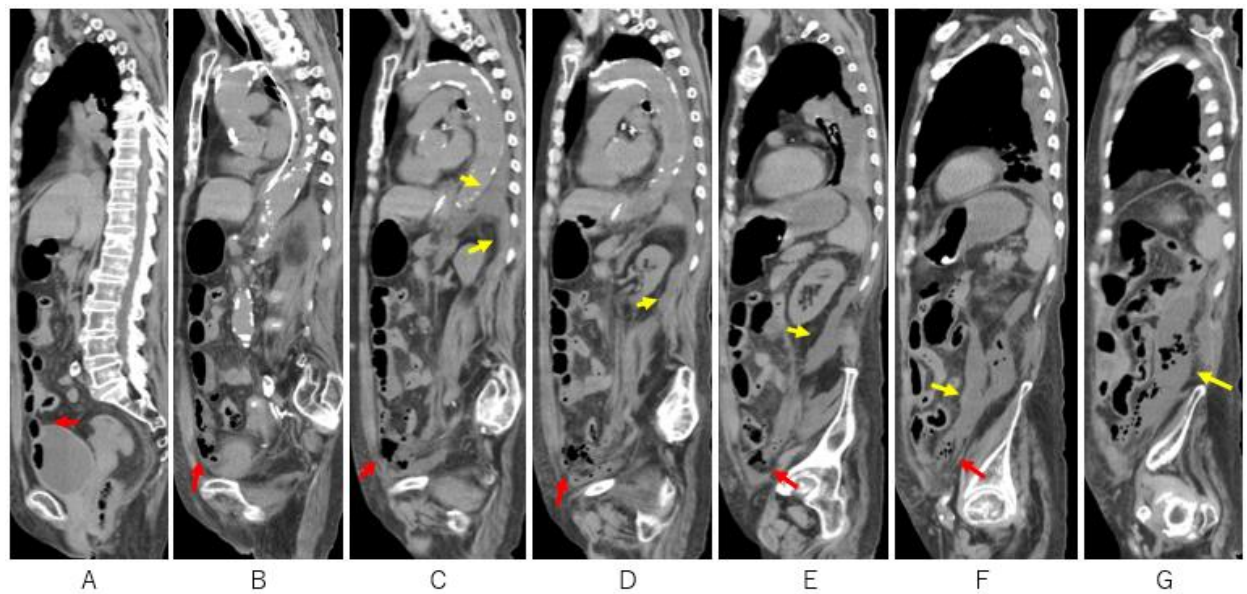


K

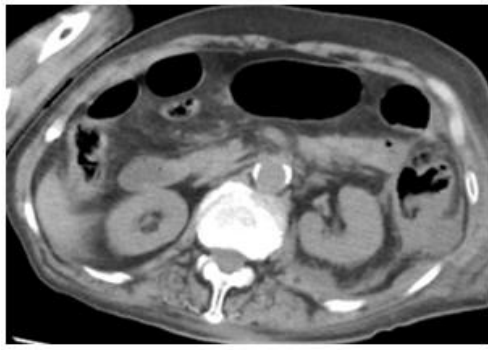
下行結腸周囲に液貯留、軸位断で左胸水は黄色矢印に示すように後傍腎腔の液と連続している。脂肪織の間を走る筋膜に沿って浸潤液がみられる。膿瘍のガス形成を伴っている。膿瘍のガスは膀胱の外側から膀胱上部に連続している。



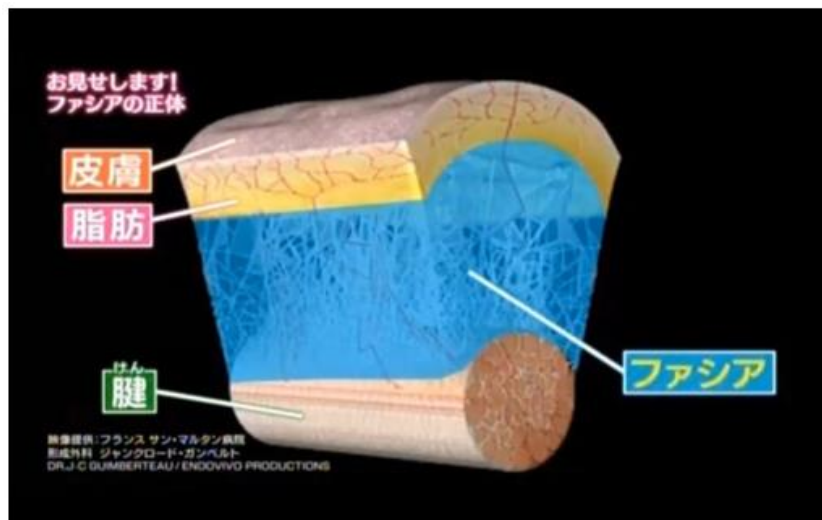
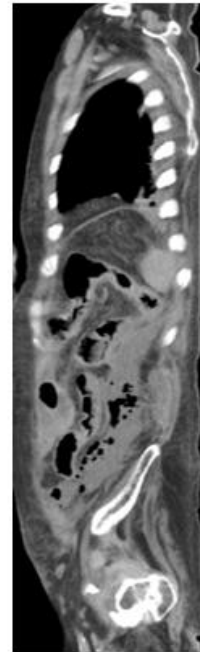
下行結腸周囲に液とガス貯留。冠状断で、炎症液は胸腔から後傍腎腔と連続し、且つ、前後傍腎腔間にも液貯留がみられる。さらにガス産性を伴う炎症液は骨盤腔の腹腔外スペースを通過し、左傍膀胱スペースや上傍膀胱スペースに連続している脂肪織や筋組織を包む疎な結合織に沿って広がっているように見える。



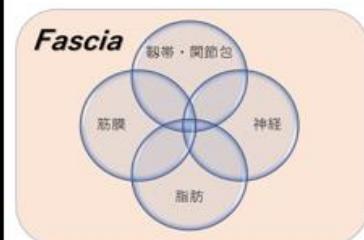
矢状断で ガス産生は上傍膀胱スペースから外側傍膀胱スペースと連続し骨盤腔の腹腔外スペースに至り、前後傍腎腔と連続し、胸腔に至っている。



腹腔外スペースにガス産生を伴う。液貯留が広がっている。腹腔外スペースは特別なものでなく、疎な結合織に沿って広がっているように見える。



病変の広がりには筋肉に沿うだけでなく脂肪や神経を取り囲む疎な結合織に沿って存在。



Fasciaは筋膜と訳すべきでなく **筋肉、関節包、神経、脂肪を取り囲む膜**

**骨盤内後腹膜腔：疎なFascia(膜) そのもの
或いはそれに沿ってできる
膨張性病変の占拠する腔**



今回の症例(頭側からの肛門側への炎症経路)

- 炎症液は、胸腔から下降の後腎傍腔、次いで骨盤内のfascia(膜)を介して左傍膀胱腔、前膀胱、膀胱へ
- 腎周囲腔は閉鎖腔で炎症液は浸潤せず
- 腎下部(骨盤内)では前腎傍腔と後腎傍腔は合体(後腎傍腔の炎症液は前腎傍腔へ)、下行結腸の後面のfasciaを下降し膿瘍(fascia 内)を形成
- 後腎傍腔の炎症液はさらに骨盤内の疎な結合組織間(fascia 内)に入り下降し左傍膀胱腔から前膀胱腔にまで到達 左傍膀胱腔(fascia 内)に膿瘍を形成

骨盤内の後腹膜腔とは本来存在する疎な結合組織Fascia内の 病変の浸潤、膨張により拡大した腔と考えられる

骨盤内後腹膜

骨盤内の後腹膜腔:

本来神経や脂肪を包んでいる疎な結合組織(Fascia)内の病変の浸潤、膨張により拡大した腔と考えられる

盲腸から上行結腸のガスは 上向き 腎周囲腔、前腎傍腔、後腎傍腔に入り込んでいた